

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	陳 思 斉
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 南京国民政府初期における国民党上海市党部の宣伝活動			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授 金子 肇		
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授 奈良 勝司		
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授 水羽 信男		
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授 船田 善之		
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、近代中国の経済・輿論の中心であった上海を対象とし、南京国民政府初期（1927～1931年）における中国国民党上海市党部の宣伝活動の実態を明らかにしながら、その活動の特徴、宣伝効果と問題点について検討したものである。</p> <p>本論文の構成は、次のとおりである。</p> <p>序章では、先行研究の整理をふまえ、国民党の中央党部ではなく地方党部の宣伝活動を分析する意義、近代中国の経済・輿論の中心であった上海という都市に注目する理由を論じた上で、各章の構成と使用史料について概括している。</p> <p>第一章でまず考察するのは、国民党党組織における上海市党部の位置づけ、同市党部で宣伝工作を担当する宣伝部の組織編成についてである。次いで、本論文が対象とする時期において上海市党部の宣伝工作を主導した陳徳徴という人物が取り上げられ、彼の生涯と革命思想が分析される。</p> <p>第二章では、党員の党への求心力を強化するために不可欠な党内宣伝が分析の対象となっている。上海市党部は、下部党組織の党員を動員する指揮命令システムを構築し、党内宣伝を党の基層レベルにまで浸透させようとした。この指揮命令システムが効力を発揮したのは、党内派閥の改組派に対する反対キャンペーンであったという。</p> <p>第三章は、反帝国主義宣伝を対象に党外（対民衆）宣伝の実態が解明される。具体的には、日本の山東出兵を契機とする反日宣伝、不平等条約撤廃運動や租界教育権回収運動に対応した宣伝活動が分析対象となっている。陳徳徴主導下の上海市党部の反帝国主義宣伝は、時に不平等条約をめぐる南京国民政府の外交方針を批判し、また租界当局から租界中国人教育に関する譲歩を引き出していたことが指摘される。</p> <p>第四章では、上海における刊行物の検閲・取締りと映画審査を対象に、市党部宣伝部の思想統制が分析されている。宣伝部の思想統制のうち、とくに重視されたのは映画統制であった。これらの工作は、国民党の統治力強化に役立ったが、同時に租界に対する刊行物検閲と映画審査には限界があったという。</p> <p>結論では、以上各章の考察結果が改めて整理され、上海市党部宣伝部の宣伝活動の特徴を5点にわ</p>			

たつてまとめ、併せてその活動が抱えた問題点が指摘されている。

本論文は、次の2点で高く評価できる。

第一に、研究史を踏まえた周到な研究課題の設定、すぐれた史料分析に裏付けられた実証性に基づき、国民党上海市党部の宣伝活動の実態が克明に明らかにされている点である。また、租界が存在する上海の特殊性が論旨に十分に組み込まれていることも特筆される。

第二に、上海市党部宣伝部を指導した陳徳徴という人物に注目したことである。それによって、近代中国史学界で注目されている彼の政治的個性が明らかとなり、また彼の活動を通じて上海市党部の中央党部からの相対的独自性を浮き彫りにすることに成功している。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和6年8月7日

備考 要旨は、A4版2枚（1,500字程度）以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size, 2 pages (about 500 words).)